

「国際学術交流の概要と成果」

NO.J2430

活動題目：日本における第二次世界大戦の長期的影響に関する学際シンポジウム 2024
Interdisciplinary Symposium on World War 2 and its Long-term Effects in Japan 2024

所属：甲南大学人間科学研究所

氏名：森茂起

本事業の母体である、日本とオーストラリアの研究者によって運営されてきた「日本における第二次世界大戦の長期的影響に関する学際的シンポジウム本シンポジウム」は、第二次世界大戦が個人や社会に及ぼした長期的な影響を学際的に明らかにすることを目的としている。本事業では、日本のメンバーのオーストラリア訪問と、オーストラリアのメンバーの訪日の機会を利用した日本におけるシンポジウム開催等の事業を行なった。

8月末～9月初めのオーストラリア訪問では、8月30日に開催されたメルボルン大学アジアセンターにおけるワークショップ「The Legacy of Japan's Traumatic Experiences of the Second World War」における研究者との交流、議論を中核にして、前後に、キャンベラの国立戦争記念館(National War Memorial)における同館歴史部長、Dr. Karl James、田村恵子氏(国立オーストラリア大学)とのミーティング、メルボルンにおける戦没者慰霊館(Shrine of Remembrance)、ホロコースト体験者のコミュニティーに設立されたHolocaust Museum、迫害等を経験したオーストラリアアボリジニがアートセラピーを通して作成したアート作品を展示するThe Dax Centre(メルボルン大学)を訪問した。それぞれの機会に、オーストラリアが経験したトラウマ的事象への理解と、その扱い、記憶継承、展示のあり方などについて議論した。

12月には、Dr. Eugen Kohの訪日に合わせて、上智大学におけるシンポジウム「言葉にしえない複雑な記憶―戦争に関わる性暴力について考える」の開催、日本トラウマティック・ストレス学会主催のトラウマの心理療法を主題としたワークショップへのメンバーの参加、立命館大学におけるシンポジウム「平和ミュージアムの挑戦―記憶と対話を通じた戦争によるトラウマの癒し」の開催(いずれもDr. Eugen Kohの講演を含む)を通して、戦争のトラウマに関する国際交流を行なった。

以上の交流を通して、日本およびオーストラリアの戦争・トラウマ研究者とのネットワークを拡大し、国際的な研究者との交流と成果の国外への発信の重要性を確認し、そのための組織の整備と2025年度以降の活動の検討を行うことができた。